

# 刑法各論の悩みどころ

橋爪 隆

## 担当編集から

「刑法総論の悩みどころ」に続いて、「法学教室」で橋爪隆先生に連載していただいた「刑法各論の悩みどころ」が単行本化されました。連載時と同じく、司法試験や法科大学院を目指す皆様には存分に活用していただきたいですし、試験とは関係なく刑法各論をより詳しく勉強したい方にも、刑法ゼミに所属されている方にもおすすめです。

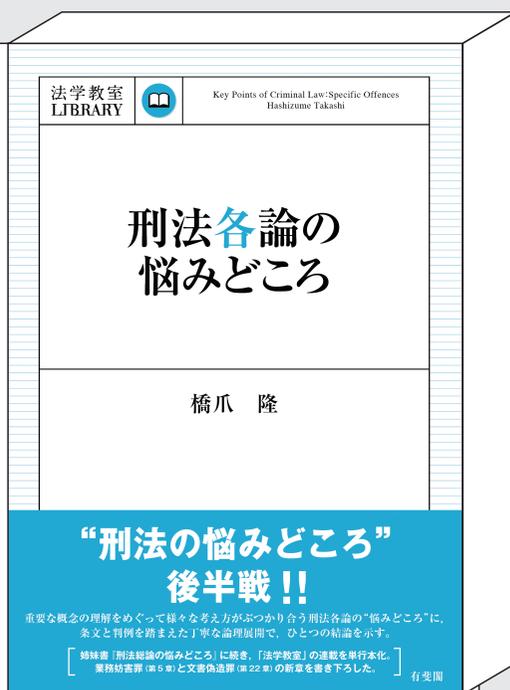
本書は、刑法各論で理解が難しい論点に対して、「(橋爪先生)自身がどのような思考過程で一定の結論を導き出そうとしているのかについて、議論のプロセスを平易に言語化」(本書はしがき)したものです。読み手も先生と一緒に考えながら(悩みながら)刑法各論の理解を深められるというわけです。また、先生の思考の筋道を追うこと自体には、条文や判例の文言からスタートし、根拠を示しながら論理の力で説得力のある議論を展開するという、法解釈の基礎力を鍛える効果もありそうです。その力は刑法以外の法分野にも応用可能であり、さらには法学以外の議論の場でも武器になるのではないのでしょうか。(O)

## Point

第5章と第22章は書き下ろし。連載で勉強した方もぜひ手に取ってください！

- 第1章 遺棄罪をめぐる問題について
- 第2章 暴行罪・傷害罪について
- 第3章 同時傷害の特例について
- 第4章 住居侵入罪をめぐる問題
- 第5章 業務妨害罪について
- 第6章 窃盗罪の保護法益について
- 第7章 窃盗罪における占有の意義について
- 第8章 窃盗罪における不法領得の意思について
- 第9章 強盗罪の構造について
- 第10章 事後強盗罪について
- 第11章 強盗致死傷罪について
- 第12章 詐欺罪における「人を欺く行為について

- 第13章 詐欺罪の実質的限界について
- 第14章 詐欺罪における交付行為について
- 第15章 横領罪における「自己の占有する他人の物」について
- 第16章 横領行為の意義について
- 第17章 銀行預金に関連する財産犯について
- 第18章 背任罪の成立要件について(1)
- 第19章 背任罪の成立要件について(2)
- 第20章 盗品等関与と罪について
- 第21章 放火罪をめぐる問題について
- 第22章 文書偽造罪における「偽造」の意義について
- 第23章 賄賂罪における職務関連性について



—レベル— 中級 上級  
—用途— 学習  
—対象— 学部 LS

2022年12月発売／544頁／定価1480円(税込)  
A5判／並製



詳細は、小社ウェブサイトの本書のページをご覧ください。

